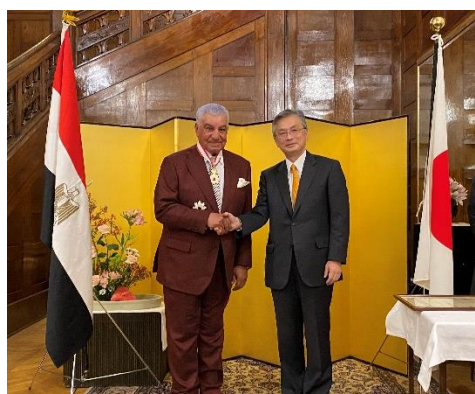




## ザヒ・ハワース元考古問題担当国務大臣に対する旭日重光章の伝達

令和4年12月7日  
在エジプト日本国大使館



12月6日、在エジプト日本大使公邸において、ザヒ・ハワース元考古問題担当国務大臣に対する旭日重光章の伝達が行われました。右受章は、日本・エジプト間の関係強化及び文化・学術交流の発展に多大な寄与を行った功績によるものです。

ザヒ・ハワース元大臣は、長年にわたりエジプト考古学の第一人者として活躍したのみならず、考古最高評議会のトップとして事務総長を9年間務め、その後、文化省から考古部門が独立した際には初代大臣に就任するなど、考古行政の基礎を築きました。

また、国際的評価が極めて高いクフ王ピラミッドの「第2太陽の船」の発掘・調査をはじめ、日本の学術関係者による多くの共同研究や交流は、ザヒ・ハワース元大臣の日本に対する深い理解と一貫した支援により実現しました。

このほか、エジプト考古学に対する日本の関心が非常に高いことを受け、日本での展覧会開催の積極的な支援や、訪日時における全国各地の講演活動などを通じて、エジプト考古学を通じた両国民の相互理解の促進に貢献してきました。

岡浩大使より、ザヒ・ハワース元大臣の叙勲に祝意を表するとともに、「第2太陽の船」が日・エジプト両国の協力のもとで復原作業が進んでおり、エジプトの専門家と日本の専門家が文字どおり肩を並べて修復に取り組んでいることに触れつつ、将来、「第2太陽の船」が日・エジプトの新たな協力の象徴でもある「大エジプト博物館(GEM)」における目玉展示となり、多くの訪問客を魅了することを期待する旨を述べました。



受章に際しザヒ・ハワース元大臣は、「第2太陽の船」をはじめとしたこれまでのエジプトにおける考古分野に関する日本からの協力について深い感謝を述べつつ、日本で開催されたツタンカーメンの展覧会などを通して、エジプト考古学に対する日本の関心が非常に強いことを実感しており、今後も日・エジプトの協力関係が強化されることを期待する旨を述べ、栄えある受章に対する慶びを表明しました。



(了)